

主日礼拝

2021年10月24日
午前10時30分

前奏 「天と地の神よ」 (S.カーウ-エート)

参集 (報告・紹介・予定)

招詞

「主よ、わたしたちの神よ、
あなたこそ、
栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方。
あなたは万物を造られ、
御心によって万物は存在し、
また創造されたからです。」
(ヨハネ黙示録 4:11)

交読詩編 19:1~11

司式者：天は神の栄光を物語り
会衆：大空は御手の業を示す。
司式者：昼は昼に語り伝え
会衆：夜は夜に知識を送る。
司式者：話すことも、語ることもなく
会衆：声は聞こえなくても
司式者：その響きは全地に
会衆：その言葉は世界の果てに向かう。
司式者：そこに、神は太陽の幕屋を設けられた。
会衆：太陽は、花婿が天蓋から出るように
司式者：勇士が喜び勇んで道を走るように
会衆：天の果てを出で立ち
司式者：天の果てを目指して行く。
会衆：その熱から隠れうるものはない。
司式者：主の律法は完全で、魂を生き返らせ
会衆：主の定めは真実で、無知な人に知恵を与える。
司式者：主の命令はまっすぐで、心に喜びを与え
会衆：主の戒めは清らかで、目に光を与える。
司式者：主への畏れは清く、いつまでも続き
会衆：主の裁きはまことで、ことごとく正しい。
司式者：金にまさり、多くの純金にまさって望ましく
会衆：蜜よりも、蜂の巣の滴りよりも甘い。

祈禱

献金 献金箱が受付に置いてありますので、礼拝前にお届けください。

主の祈り

天にまします我らの父よ、
ねがわくは み名をあげめさせたまえ。
み国を来らせたまえ。
みこころの天になるごとく
地にもなさせたまえ。
我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。
我らに罪をおかす者を我らがゆるすごとく、
我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、
悪より救い出したまえ。
国とちからと栄えとは限りなくなんじのもの
なればなり。
アーメン。

聖書 創世記 2:4b~9 旧約(新共同訳) p2
15~25 旧約(新共同訳) p3

主なる神が地と天を造られたとき、地上にはまだ野の木も、野の草も生えていなかった。主なる神が地上に雨をお送りにならなかったからである。また土を耕す人もいなかった。しかし、水が地下から湧き出て、土の面をすべて潤した。主なる神は、土(アダマ)の塵で人(アダム)を形づくり、その鼻に命の息を吹き入れられた。人はこうして生きる者となった。主なる神は、東の方のエデンに園を設け、自ら形づくった人をそこに置かれた。主なる神は、見るからに好ましく、食べるに良いものをもたらすあらゆる木を地に生えいでさせ、また園の中央には、命の木と善悪の知識の木を生えいでさせられた。主なる神は人を連れて来て、エデンの園に住ませ、人がそこを耕し、守るようにされた。主なる神は人に命じて言われた。「園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。」主なる神は言われた。「人が独りでいるのは良くない。彼に合う助ける者を造ろう。」主なる神は、野のあらゆる獣、空のあらゆる鳥を土で形づくり、人のところへ持って来て、人がそれぞれをどう呼ぶか見ておられた。人が呼ぶと、それはすべて、生き物の名となった。人はあらゆる家畜、空の鳥、野のあらゆる獣に名を付けたが、自分に合う助ける者は見つけることができなかった。主なる神はそこで、人を深い眠りに落とされた。人が眠り込むと、あばら骨の一部を抜き取り、その跡を肉でふさがれた。そして、人から抜き取ったあばら骨で女を造り上げられた。主なる神が彼女を人の

ところへ連れて来られると、人は言った。
 「ついに、これこそ
 わたしの骨の骨
 わたしの肉の肉。
 これをこそ、女（イシャー）と呼ぼう
 まさに、男（イシュ）から取られたものだから。」
 こういうわけで、男は父母を離れて女と結ばれ、二人は一体となる。
 人と妻は二人とも裸であったが、恥ずかしがりしなかった。

賛美 360(1,2,3) 「人の目には」

Immortal, invisible
 詞: W. Chalmers Smith, 1824-1908
 ST. DENIO (JOANNA)
 曲: ウェールズ民謡

1 ひ と の 目 に は か く さ れ た、
 2 か み の わ ぎ は や す み な く、
 3 ど ん な ち い さ な い の ち に も

た だ ひ と り の 生 け る か み。
 お と も た て ん ず す す み ゆ く。
 か み は は な を ひ ら か せ る。

せ ん の う な る 主 の み 名 を、
 そ く の せ い す は そ し お え た ち

た た え う た え、 こ え あ わ せ。
 そ の め ぐ た み は か と え ぎ あ り な い。
 主 の こ と ば は と こ し え に。

- ① 人の目には 隠された、
 ただ一人の 生ける神。
 全能なる 主の御名を、
 たたえうたえ、声合わせ。
- ② 神の業は 休みなく
 音も立てず 進みゆく。
 その正義は そびえ立ち
 その恵みは 限りない。
- ③ どんな小さな命にも
 神は花を 開かせる。
 草はすべて しおれても
 主の言葉は とこしえに。
- ④ 人の目には まぶしくて
 もはやとらえきれぬほど、
 天の神の み栄えは
 光はなち 世を照らす。

説教 「土に属する人間」

賛美 425(1,2,6) 「こすずめも、くじらも」

1. こ す ず め も く じ ら も
 2. お お じ ゃ ん も あ ら し れ も
 6. い つ の よ も お ら れ る

そ ら の ほ し も ー
 い な の び か り も ー
 あ い の か み は ー

つ く ら れ た か た を
 つ ら れ た か た を
 み ら い の せ だ い の

た た え て う た う ー
 た す け も と め る ー
 い き よ ろ こ び ー

- ① こすずめも、くじらも、
 造られた方を たたえて歌う。
- ② 大地震も、嵐も、稲光も、
 造られた方に 助けを求める
- ③ 七色に輝く 虹と十字架、
 空の幕を見て、感謝献げよう。
- ④ 飢え、渇き、病と、浪費の世に、
 造られたものは いやし求める。
- ⑤ 隣人と敵との へだてはなく
 神は愛と平和 お与えになる。
- ⑥ いつの世もおられる 愛の神は、
 未来の世代の 生きる喜び。

派遣

司式者 主は言われます。
 「わたしは誰を遣わすべきか。」

会衆 わたしがここにおります。
 わたしを遣わして下さい。

祝祷

アーメン

アーメン アーメン アーメン

後奏 「造られたものは、たたえよ み神を」
 (L.ピツキ)

司式 要田 悟史
 説教 向井 希夫 牧師
 奏楽 大代 恵

※お立ちになるのが困難な方は、
 座ったままで礼拝をお守り下さい。
 ※讚美歌の最後には、基本的に「アーメン」を付けません。